

震災復興家族応援プロジェクトinむつ ～本州のてっぺん下北半島から～ 災害復興を

◇ **会場：むつ市立図書館**

◇ **9月19日(月)～24日(土) 団士郎 家族漫画展**

(9月22日(木)は休館日のため、お休みします。)

9月23日(金)・24日(土) 家族応援セミナー

<企画主旨>

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、各地に未曾有の被害をもたらしました。被災地で暮らす人々はどのような影響を受け、どのように生活を再建していくことができるのでしょうか。そして今、私たちに何ができるのでしょうか。

「対人援助学の創造」を掲げ十年の蓄積を持つ立命館大学大学院応用人間科学研究科は、その専門的知識・技術・ネットワークをフルに稼働させ、震災復興支援に寄与したいと、今後十年にわたり東北各地で対人援助的イベントやプログラムを実施することにしました。企画者は、このような実践の中で家族やコミュニティに寄り添い、復興の物語に耳を傾けながら、社会変化のwitness(証人・目撃者)として存在したいと主旨をまとめています。

- 立命館大学大学院応用人間科学研究科

(<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/gr/gsshs/index.html>)

- 対人援助学会(<http://www.humanservices.jp/>)

むつ下北地域では直接的な被害は少なかったものの、災害復興のために被災地に赴く自衛隊や原発関連の仕事に従事する人々が多く、震災に間接的影響が強い地域と言えます。

下北地域県民局地域健康福祉部(青森県むつ児童相談所)はこの主旨に賛同し、むつ市での開催を協働することとしたものです。

主催：立命館大学大学院応用人間科学研究科・下北地域県民局地域健康福祉部
後援：むつ市・むつ市教育委員会

9月19日(月)～24日(土)「団士郎 家族漫画展」



家族応援セミナープログラム

1日目: 9月23日 参加対象: 興味のある方どなたでも(定員 100名)

12:30～13:00	受付
13:00～14:30	1 団先生の漫画トーク～「木陰の物語」の物語 <講師: 団士郎> 物語には描かれた部分と、描かれなかった部分があります。描ききれなかったものや、あえて描かなかったものも、家族のたたずむ木陰には存在します。そんな物語を、スライドショーマンガに併せてお話しします。
14:30～14:45	休憩
14:45～16:15	2 子育て支援者応援ワークショップ～子育て支援を楽しむために <講師: 村本邦子> 子育ては本来、素敵なことのはずだけど、どういうわけか、一生懸命やればやるほど大変なことに思えてきます。子育て支援も本来、素敵なことのはずだけど、どういうわけか、一生懸命やればやるほど大変なことに思えてくるものです。「子育て支援しんどい(支援者)→子育てしんどい(親)→生きるのしんどい(子ども)」という悪循環を逆に回して、「生きるの楽しい(子ども)←子育て楽しい(親)←子育て支援楽しい(支援者)」となるといいですね。まずは支援者が元気になって、自分の人生と支援活動を楽しめることを一緒に考えてみましょう。

東京おもちゃ美術館 (<http://goodtoy.org/ttm/>) の協力で、図書館内に子どももの小さな遊びスペース(定員 20 名程度)を設置します。

2日目：9月24日（土）

参加対象：むつ市内の幼児のいる家族 20 組限定

10:00～	受付
10:30～12:00	3 父と子の絵本ワークショップ ＜講師：中村正＞ 絵本の読み聞かせは、楽しい時空間に誘ってくれ、父子の関わりをつくるよいチャンネルになります。お父さん向けの、お父さんが読み聞かせた方がいい絵本がたくさんあります。こうした絵本はお父さんにも元気を与えてくれます。このワークショップでは読み聞かせの練習をします。大事なことの一つめは、感情や気持ちを込めて読むことです、二つめは、ゆっくりと語りかけるようにして読むことです、三つめは、楽しみながら読むことです。時間の流れをゆっくりめにきりかえ、空想の世界に身を漂わせるということがおおらかな気持ちにさせてくれるでしょう。
	4 ママたちのいどばた会議 ＜ファシリテーター：村本邦子＞ 子育て中はどうしても自分のことが後回しになってしまいがち。ゆっくりお茶を飲みながら、一緒に楽しくおしゃべりしませんか。



参加申し込み

別添申込書にご記入のうえ、FAXか郵送でお申し込み下さい。

家族でおでかけできるセミナーです。お会いできることを楽しみに企画しました。お申し込みお待ちしております。

それぞれ、定員に成り次第締め切らせていただきます。

問い合わせ（連絡先）

〒035-0073 むつ市中央1丁目1-8 青森県むつ児童相談所 杉浦あて

TEL 0175-23-5975 FAX 0175-23-5982

講師プロフィール

< 岡士郎 >

立命館大学大学院応用人間科学研究科教授。公立児童相談機関の心理職 25 年を経て 98 年に独立、「仕事場 D・A・N」主宰。日本家族心理学会理事。「家族心理臨床」の世界における訓練トレーナーやカウンセラーとしても活動。構造的家族療法という考え方をベースに家族カウンセリング、個人カウンセリングを行っている。ほか、全国で家族療法ワークショップや講演会を実施。漫画家・コラムニストとしても多数作品を発表する。主な著書に『不登校の解析』(文春新書)、『家族力×相談力』(文春新書)、『ヒトクセある心理臨床家の作り方』(金剛出版)、『家族の練習問題』1~3 (ホンブロック) など。

< 村本邦子 >

立命館大学大学院応用人間科学研究科教授、女性ライフサイクル研究所所長、NPO 法人 FLC 安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク理事長。臨床心理士。おもに子どもの臨床にかかわってきたが、自宅出産を機に女性問題に目覚め、1990 年、女性ライフサイクル研究所を設立。妊娠・出産・子育てのサポート、女性と子どものトラウマ(虐待、DV、性暴力など)、コミュニティのトラウマをテーマにカウンセリングやグループワーク、予防教育に取り組んできた。支援者の養成や支援にも力を入れている。主な著書は、『大人びてきたわが子に戸惑ったとき読む本』(PHP)、『暴力被害と女性 - 理解、脱出、回復』(昭和堂)、『援助者のための女性学入門』(三学出版)、『子ども虐待の防止力を育てる』(編著、京都法政出版)、『しあわせ家族という嘘』(創元社)、『今からでもできる人格の土台をつくる子育て』(三学出版)、『子どもの叱り方』(三学出版) など。

< 中村正 >

立命館大学大学院応用人間科学研究科教授。専攻は、臨床社会学(「社会病理学」)、男性学。男らしさの病理(暴力と攻撃性、離婚、非行や犯罪、アルコール依存症、働きすぎ、メンツの病など)に関心をもっている。男についての関連著書、『ドメスティック・バイオレンスと家族の病理』(作品社)、『家族のゆくえ~新しい家族社会学』(人文書院)、『「男らしさ」からの自由』、『「男らしさ」から「自分らしさ」へ』、『男たちの私探し - ジェンダーとしての男の発見』、『男が見えてくる自分探しの 100 冊』(いずれも、かもがわ出版) など。

立命館大学大学院応用人間科学研究科 (<http://www.ritsumeit.ac.jp/acd/gr/gsshs/index.html>)

対人援助学会 (<http://www.humanservices.jp/>): 「対人援助マガジン」を無料でダウンロードして、講師たちの連載を読むことができます。

震災復興家族応援プロジェクト in むつ 参加申込書

<申し込み先>

〒035-0073 むつ市中央1丁目1-8 青森県むつ児童相談所 杉浦あて

FAX 0175-23-5982

	記入欄			出席希望に○印をつけてください
氏 名				23 日・24 日
氏 名				23 日・24 日
氏 名				23 日・24 日
連絡先 TEL				
E-Mail				
こどもの遊び場 23日のみ 23日セミナー参加 のお連れのお子様に 限らせていただきます。	年齢	性別	氏 名	出席希望に○印をつけてください
				こどもの遊び場 ・父と子の絵本 WS
				こどもの遊び場 ・父と子の絵本 WS
				こどもの遊び場 ・父と子の絵本 WS

定員を超えた場合、お断りの連絡をさせていただく場合がございますので、
連絡先は必ずご記入くださるようお願いいたします。